

戦没者追悼・平和祈念のことば

本日ここに飯塚市長様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席をたまわり、出雲市戦没者追悼・平和祈念式典が厳粛に行われるにあたり、出雲市遺族会を代表いたしまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

顧みますれば、先の大戦が終わりを告げてから、早いもので81年の歳月が流れました。この戦争により、我が国では310万人、出雲市においても、6,244人もの尊い命が失われました。飢えや病い、そして激しい戦火にさらされた異郷の地で、先人たちが最後に思い浮かべたのは、見慣れた故郷・出雲の美しい景色と、愛する家族の姿であったと思います。「生きて必ず帰る」そう信じながらも、戦場に散っていった戦没者の皆様の無念を思うとき、今なお胸が締め付けられる思いでございます。

戦後、私たちは、残された家族や親戚、地域、そして遺族会の皆様と互いに手を携え、助け合って生きてまいりました。最愛の家族を失い、その深い悲しみを抱えながら激動の時代を生き抜く苦労は、到底、言葉で尽くせるものではありませんでした。本日お集まりの皆様、そして全国の遺族の方が歩んでこられた道のりは、共に心に抱き続けてきた共通の記憶であります。

あれから81年。時代は移り変わり、日本は目覚ましい発展を遂げ、平和で豊かな国となりました。しかし、私たちが今享受しているこの平和と繁栄は、祖国の安寧を願い、家族の未来を信じて尊い命を捧げられた方々の、多大なる犠牲の上に築かれていることを、私たちは一刻たりとも忘れてはなりません。

いま、国際情勢に目を転じますと、世界各地で依然として戦争・紛争が絶えず、特に、世界の動向を左右する大国がこれらの衝突に関与している現状は、さらなる戦禍の拡大を予感させ、深い憂慮（ゆうりょ）を禁じ得ません。戦争は、底知れぬ悲しみと苦しみを生み出し、人々の尊い命や未来を一瞬にして奪い去っていきます。その悲惨さを身を以て知る私たち遺族会だからこそ、かつて我が国が歩んだ苦難の歴史を語り継ぎ、平和の尊さを今一度、強く訴えかけていく使命があると思っております。

現在、私たち遺族会は、会員の高齢化が進み、戦争の悲惨な実相を直接伝えることが年々困難になるという、厳しい現実と直面しております。しかし、時代の節目である今だからこそ、私たちはあの悲劇を風化させてはなりません。戦争の愚かさ、そして平和と命の尊さを若い世代へと語り継ぎ、二度と私たちのような悲しみを持つ遺族を生み出さないよう、力を尽くすことをここにお誓い申し上げます。

結びに、本日ここに ご英霊のご冥福とご参列の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げるとともに、出雲市戦没者追悼・平和祈念式典を開催していただきましたことに深く感謝を申しあげ、追悼のことばといたします。

令和8年8月2日 出雲市遺族会 会長 山代 裕始